

令和4年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立新宮高等学校（全日制） 校長名：東 啓史

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・生徒や地域の期待に応える質の高い教育の実践を目指す。
- ・知・徳・体が調和し、地域社会や次世代の日本社会、国際社会におけるさまざまな分野で活躍できる生徒を育成する。
- ・知識や技能を活用し、課題解決に向けた取り組みを主体的に進められる生徒を育成する。
- ・思いやりがあり、多様な他者より良い方向を目指してともに活動できる生徒を育成する。

学校評価の公表方法

振学会総会や学校運営協議会等において、保護者や学校関係者に公表する。また、ホームページ上にも記載し、公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月27日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒が主体的に学びに向かえるよう働きかけを強め、生徒一人ひとりの学力の定着・向上を図るとともに自己肯定感の高まりを促す。	B	探究学習や探究的な学びの場を授業や諸活動で多く持つ。	授業や諸活動で探究活動が行われているか。	B	新課程や普通科改革支援事業の取組で探究活動を増やしている。	新課程での授業展開・評価の研究や普通科改革支援事業における研究開発を通じて、各教科で探究学習の充実等、授業改革を進めていく。その中で、地道な学習の積み重ねやICTの活用も大事にしていく。
			授業時間の確保と授業規律の保持。	年間授業計画の100%実施とチャイム授業の実践。	B	年間授業計画通りの水準で授業を実施できている。	
			計画的に小テストや課題テスト、補習等を行う。	小テストや課題テスト、補習等の効果的な実践。	B	各教科・授業において効果的に実践できている。	
2	生徒一人ひとりの進路意識を高め、希望進路の実現を支援する。	B	継続的な個別面談・進路相談及び三者面談の実施。	個別面談及び三者面談を年間5回/1人以上行う。	B	概ね実施できているが、さらなる充実が課題である。	進路指導部・キャリア研究部と各学年の連携を密にしながら、学校全体で進路年間指導計画に沿って、生徒の希望進路の実現を支援していく。面談の充実とICTを活用した情報発信を次年度も進める。
			進路検討会や分析会、進路LHR・AS等の計画的な実施。	進路指導年間計画に沿って着実に実施できているか。	B	進路指導年間計画に沿って実施できている。	
			進路便りの発行や説明会等を通して、進路情報を提供する。	進路指導年間計画に沿って着実に実施できているか。	C	進路便りの発行回数は少なかったが、Teamsで随時情報発信した。	
3	地域の高等学校として、家庭や地域と連携しながら教育課題の解決に取り組む。また、大学や諸機関との連携も強め、学際的な学びについて研究することで学校の魅力化を図る。	B	学校行事等を通して、保護者・地域との連携を深める。	公開授業の実施。学校行事の広報活動の実施。	C	感染症対策のため、公開授業は実施できなかった。	次年度は、公開授業や学校行事を含め、地域と連携した取組を積極的に行っていく。コミュニティスクールの充実を図り、学校・保護者・地域が共に生徒の成長を支えられる関係性の構築を目指す。普通科改革支援事業の取組を通じた諸機関との連携も進めていく。
			保護者・地域と連携して規範意識を重んじる生活指導を行う。	定期的な校門街頭指導、個別指導、校内美化等の実施。	B	校門街頭指導や校内美化は計画通り実施できた。	
			大学や諸機関との連携を強め、学際的な学びの実現を目指す。	大学や諸機関との新たな連携を構築できているか。	B	普通科改革支援事業の取組を通じて連携の構築を進めている。	
4	学校全体の組織的実践力の強化に努める。	C	校務分掌の整備や現職教育等を行い、組織的に課題に取り組む。	校務分掌の整備や現職教育等が組織的実践力の強化に繋がっているか。	B	キャリア研究部・ビジョン委員会を新たに設け、課題に取り組む体制作りを進めた。	新たに設けた分掌での取組内容を整理し、さらに充実させていく。また時代の要請に応えられる学びの環境を整えられるよう、さらに校務分掌の整備や現職教育の充実を図る。テーマを明確にした研究授業の実施や生徒が主体となる活動の活性化を進める。
			教科指導力を高め、45分授業や観点別評価の充実を図る。	各教科において、研究授業を実施する。	B	教科横断型授業の試行を中心に研究授業を実施した。	
			委員会活動や部活動を通して、生徒の主体性や社会性を育む。	生徒の主体性や社会性を育む活動がなされているか。	B	生徒会活動や委員会活動の活性化を図っている。	

学校関係者評価（3月23日実施）

学校関係者から高い評価をいただいた項目としては、「教育目標に沿った教育の実践」「教科指導」が挙げられる。ただ、「特色ある教育課程の編成」や「教育課程の編成に応じた指導」について評価をいただいている一方で、ICTの活用や「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業、生徒一人ひとりの課題解決や学力アップのための指導では課題も指摘されている。

また、課題として捉えられている項目としては、「地域との連携」「情報提供」が挙げられる。公開授業が実施できていないことや、家庭・地域・関係諸機関と連携した体験活動への取組、地域の人的・物的教育資源を積極的に学校の教育活動の中に取り入れているか、という点などで今後の積極的な取組が求められている。さらに、人としての在り方・生き方の観点に立った、入学時から卒業時までを見通した組織的・計画的な進路指導についてもこれまで以上の取組が望まれている。

加えて、次のようなご意見もいただいている。

- ・地域の子どもたちから選ばれ、子どもたちの力を伸ばせる学校であるための方策を考え続けてほしい。
- ・人材育成と進路保障を果たすための一層の学習システムの確立、それらを実施するための教員個々の指導力の向上を図ってほしい。

